



新機能および変更された機能に関する情報

この章では、このマニュアルの各リリースで追加または変更された情報と、その情報が記載されている場所を示します。

機能	説明	対象リリース	参照先
『Cisco Nexus 1000V Security Configuration Guide, Release 4.2(1)SV1(5.1)』には、新しい情報は追加されていません。			
UUFB	スイッチの転送パスがフラッディングしないように不明なユニキャストパケットをブロックできます。	4.2(1)SV1(4a)	第 16 章「不明なユニキャストフラッディングのブロック」
DHCP スヌーピング リレー エージェント (オプション 82)	DHCP パケットの VSM MAC およびポート情報をリレーするように DHCP を設定できます。	4.2(1)SV1(4)	第 12 章「DHCP スヌーピングの設定」
DHCP スヌーピング バインディング テーブル	インターフェイスの DHCP スヌーピング バインディング テーブル エントリを消去できます。	4.2(1)SV1(4)	第 12 章「DHCP スヌーピングの設定」
DHCP のイネーブル化	feature DHCP コマンドを使用して DHCP をグローバルにイネーブルまたはディセーブルできます。	4.2(1)SV1(4)	第 12 章「DHCP スヌーピングの設定」
SSH サーバのイネーブル化	feature DHCP コマンドを使用して SSH サーバをイネーブルまたはディセーブルできます。	4.2(1)SV1(4)	第 7 章「SSH の設定」
Telnet サーバをイネーブルにする	feature DHCP コマンドを使用して Telnet サーバをイネーブルまたはディセーブルできます。	4.2(1)SV1(4)	第 8 章「Telnet の設定」
HTTP サーバのディセーブル化	HTTP サーバをセキュリティ目的でディセーブルします。	4.2(1)SV1(4)	第 15 章「HTTP サーバのディセーブル化」
VSD	Virtual Service Domain (VSD; 仮想サービス ドメイン) を利用すると、ネットワーク サービスのためのトラフィックの分類と分離が可能になります。	4.0(4)SV1(2)	第 3 章「VSD の設定」
DHCP スヌーピング	DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) スヌーピングは、信頼できないホストと信頼できる DHCP サーバとの間でファイアウォールのような役割を果たします。	4.0(4)SV1(2)	第 12 章「DHCP スヌーピングの設定」

機能	説明	対象リリース	参照先
Dynamic ARP Inspection (DAI; ダイナミック ARP インスペクション)	DAI (Dynamic ARP Inspection) とは、レイヤ2 ブロードキャスト ドメイン内の IP 通信を実現するために、IP アドレスを MAC (メディア アクセス コントロール) アドレスにマッピングする機能です。	4.0(4)SV1(2)	第 13 章「Dynamic ARP Inspection の設定」
IPSG	IP ソース ガードは、IP アドレスと MAC を調べてトライフィックを許可する、インターフェイス単位のフィルタです。	4.0(4)SV1(2)	第 14 章「IP ソース ガードの設定」